

東北大学情報科学研究科
オープンキャンパス
インターネット投票を体験しよう

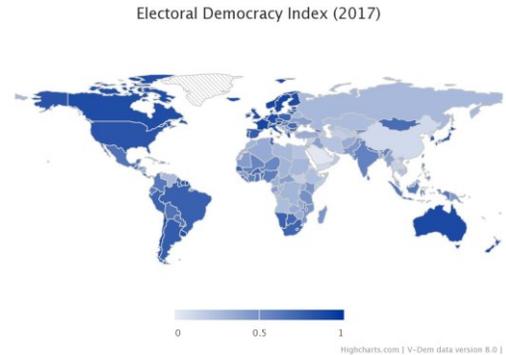
政治情報学研究室
河村 和徳

どんな研究をしているの？

- 選挙の現場のデジタル化・・・電子投票
→ 本を出しました。
- 議会の現場のデジタル化・・・オンライン会議
→ 全国都道府県議会議長会都道府県議会デジタル化専門委員会（座長）としても活動しています。
- Variety of Democracyの日本の民主主義にか
かるコーダーをしています。



選挙民主主義の状況 (V-Dem のデータから)



出典: Varieties of Democracy Project

新型コロナ禍で変わる社会

- 大学…オンライン授業(放送大学的?)
 - 教員と学生の接点の変化、部活・サークル活動の変化
- 企業…テレワーク
 - 企業の人材評価が変わる、採用が変わる、二拠点居住
- しかし…ほとんど変わっていないところもあります。
 - 民主的意思決定の現場や行政

新型コロナと選挙

- 選挙は「密」で成り立っています。
 - 投票所…密
 - 開票所…密

- 選挙運動…みんなで集まってガンバ
ロー、握手も必須



世界の選挙民主主義国家の対応

1. 不安を低減するため、対症療法的な感染症対策を試みた。
 2. 不安を低減するため、選挙の延期を判断した。
 3. 不安を低減するため、郵便投票など非接触で投票できる投票技術(voting technology)を活用した。
- 日本の対応は、基本的に「1」です。

なぜインターネット投票と聞かないのでしょうか

- 日本は情報技術先進国
 - ネット通販の利用者は？
 - SNSの利用者は？
 - 携帯電話はみんな持っていますよね？



→ なぜ、インターネット投票しないのでしょうか？

- ある大学生は・・・
 - 若者のためにインターネット投票を導入すべき。
 - そうした投票率が上がるはず。



今日はそれを体験し考えてみます

インターネット投票は技術的に可能

- 既にインターネット投票は行われています。
 - 株主総会での電子投票
 - アイドル総選挙の電子投票
 - 大学の教授会の電子投票

→ なぜ、政治家を選ぶ選挙でやられていないのでしょうか？

スパイラル株式会社 VOTE FORカンパニーの協力で後ほど体験してみます。



インターネット投票のメリット

- 投票が便利になる(投票所に行かなくてすむ、投票所を準備しなくてすむ)
 - 世界のどこからでも(ネットに接続できれば)投票できる
 - 寝たきりでも家から投票できる
 - 災害で遠くに避難していても…
- 開票が早くて正確
- 人手がいらない(選管の手間がはぶける)

インターネット投票を導入している国

- 全国的に導入している国
 - エストニア(期日前投票に利用)
- 一部の州で導入している国
 - スイス
 - インド
 - など



インターネット投票(i-voting)と 電子投票(DRE, e-voting)の違いは？

• インターネット投票

- インターネットに接続された手持ちの端末から投票

• 2つの段階

1. 投票所にあるタブレット等の端末から投票
2. 各自個人の端末から「どこでも投票できる」

※日本では地方選挙で電子投票ができるようにすでに制度化されています。

• 電子投票

- 投票所の専用端末から投票する
- イメージは、銀行のATM



それでは早速、体験してみましょう。

1. QRコードを読み込んで、サイトにアクセスしてください。
2. シリアルコードを打ち込んでください。
3. 投票画面が出てきます。指示に従って投票したら、終わりです。

スパイラル株式会社 VOTE FORカンパニーの
市ノ澤充さんが投票結果の発表をします。

続いて、つくば市のスーパーシティ特区で行っ
た実証実験について講話をいただきます。

あらためて考えてみます、
なぜインターネット投票が実現しないのでしょ
う？

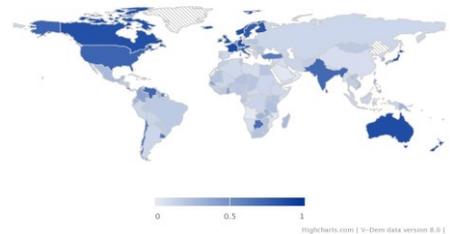
インターネット投票を行う条件

- 名簿に有権者がきちんと登録されている。
- リアルタイムに投票事実を管理できる。(ただし、投票の秘密が守られる必要がある)
- 立会人がいないので、自由意思による投票をしたことを担保する必要がある。
- インターネットを使えない人への対応もする必要がある。

本人確認の問題

- 日本人的特性
 - IDカードを持ち歩かない
 - 国民総背番号制に対する拒否感
- マイナンバーカードが普及していない現実
 - ネット上で本人確認をする必要がありますが・・・
 - マイナンバー活用拡大が先

Electoral Democracy Index (1970)



韓国・台湾・エストニアとの違い

なぜファックスで投票ができる制度が成り立っているのでしょうか。

- 洋上投票・南極投票は投票立会人がいる
 - 【立会人の役割】
 - 自由に投票できる環境を維持する
 - 近づきすぎないことで秘密投票を確保する
- 機械に対する信頼がある
 - 日本はファックスを信頼している
 - 世界のビジネス現場でファックスを利用する企業はない
(日本の常識は世界の非常識)

ふりかえってみます

- 選挙をしている国 = 民主主義国家ではない
ロシアも選挙で大統領を選んでいる
- 選挙の基本原則
 - 普通選挙...原則、未成年を除く、全ての国民に投票権がある
 - 自由選挙...有権者であれば立候補も自由、投票先の決定も自由
 - 平等選挙...1票の価値は平等
 - 秘密投票...投票先は秘匿される

実は「立会人なき投票」は採用されています。

- 障がい者や要介護者が利用できる「郵便投票」
- 在外選挙制度で準備されている「郵便投票」
- コロナ隔離患者のための「特例郵便等投票」

→ これらは、投票権保障のための例外

- 実は、郵便投票は1回廃止されている、理由は選挙違反がたくさん出たから

→ 「選挙の公正」と「投票権の保障」の狭間で決められているルール

インターネット投票を一斉に導入するのではなく...

- 不安な人、使えないという人がいるという視点
- デジタル・インクルージョン(デジタルで困っている人を救う)という視点
- 先行導入してもいいのでは？
 - 在外選挙におけるインターネット投票導入を優先する、障害のある人のためのインターネット投票を考えてみるのも解決策です。

最後に、「インターネット投票が導入されたから、若者は投票行く」ほんとは？

- 結論から言えば、**そうとは言い切れない**

- 理由

投票率は、

- 自分の1票の有効性が感じられる
- 政党・候補者の公約の違い
- 投票にかかるコスト ← **インターネット投票はコスト削減にはつながるが**
- 投票義務感
などの影響を受ける

